

導入事例
てれたっち「わからない」がなくなるから、質問が半減!
クイズや動画を効果的に活用した「てれたっち」の授業とは

岐阜県中津川市は積極的なICT投資により、公立学校の教育環境の充実を目指されている自治体です。中津川市立苗木中学校は、大型ディスプレイや書画カメラと「てれたっち」を活用し、動画やクイズを取り入れた魅力的な授業を実践されています。同校で技術科と英語を担当する渡辺裕斗先生と、ICT導入に取り組まれている長屋亮司教頭先生にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

動画やクイズを使った一体感ある授業が実現

「てれたっち」を使った授業について詳しく教えてください。技術科の授業では、ディスプレイを2台使われていましたね。

渡辺先生:「てれたっち」は、技術科のような「見本を示して教える」シーンの多い授業に最適です。私は並べて比較することを目的に、「てれたっち」を搭載したメインのディスプレイと、画像や動画の表示のみを行うサブディスプレイを使っています。例えばはんだ付けについて学ぶ授業では、1つのディスプレイにあらかじめ用意したはんだ付けの手順動画Aを再生し、もう一方のディスプレイで別の手順動画Bを再生します。生徒はグループに分かれ、2つの動画を見ながら作業手順の違いについて議論します。「てれたっち」付属の白板ソフトを使えば、動画の上からタッチペンでポイントなどを書き込むことができ、さらに「記録」の機能を使えば書き込んだペンの動きを保存することも可能です。保存した内容をもう一度見たり、繰り返し動画を比較したりと、様々な使い方をすることができますね。



[2台使い]でよりわかりやすく



2つの画面を比較してクイズも

授業では白板ソフトの教材機能で作成されたクイズも取り入れられていて、一体感があふれていましたね。

渡辺先生:「てれたっち」の画面上にランダムに並んだ工具名と工具の写真を用意しておき、それぞれの写真がどの工具かを生徒に回答させたりしています。正解すれば写真の拡大機能で工具を大きく表示して詳しく解説。その後、シャッフル機能を使い、それぞれを紐付けるクイズを使って、さらにおさらいをしています。従来はプレゼンソフトを使ってクイズを作っていましたが、ゲーム性やインタラクティブ性はありませんし、アニメーションもシナリオ通りにしか動きませんから、臨機応変な対応ができませんでした。また、せっかく問題を作っても1回しか使えないのが残念でした。一度正解を出せば、生徒はすぐにどこに答えがあるのか覚えてしまいます。その点、「てれたっち」はシャッフル機能なども搭載されているので、同じクイズを繰り返し出題することができます。

臨機応変に教員と生徒の対話を後押ししてくれる「てれたっち」

従来の課題は、「てれたっち」を使うことで大幅に改善され、学習ペースが大幅にアップしたそうですね。

渡辺先生:授業のペースは学習の遅い生徒に合わせる必要がありますが、「てれたっち」があれば生徒が自分たちで解決できることもあり、全員で足踏みする必要がなくなります。実技の手順など基礎は動画で教え、イレギュラーや応用を私が指導する授業スタイルを確立しました。手順動画はいつでも見られるように「てれたっち」で動画再生を準備しておきます。わからなくなった生徒は自主的にディスプレイの前までやってきて、自分で動画を確認。これにより、基礎的な部分での質問がなくなり、時間を有意義に使えるようになりました。

長屋教頭先生:教員がディスプレイの画面をタッチペンでダイレクトに操作する点が、「てれたっち」とほかのツールとの違いだと感じています。やはり映像の力は強いです。リズムが生まれ、臨場感たっぷりに語れることが、集中力の維持につながるのでしょう。授業は教員と生徒の相互作用で作られるものですから、臨機応変な対話を後押ししてくれるのは強みですね。今後は生徒にも自由に「てれたっち」に触らせて、発想を伸ばすために活用したいと思っています。ICTを自由に使いこなせる環境とともに正しい知識を与えることで、一人ひとりの学びをしっかりと支援していきたいですね。



自由な発想が次々生まれます

取材にご協力いただいた先生



中津川市立苗木中学校
長屋 亮司 教頭先生



中津川市立苗木中学校
渡辺 裕斗 先生



CLIENT DATA

導入学校 / 中津川市立苗木中学校
所在地 / 岐阜県中津川市
設立 / 1947年